研究室紹介

岩手県農業研究センター 県北農業研究所 園芸研究室

県北農業研究所は，岩手県北部の軽米町山内にあり，県北・中山間地域における経営改善の引き金となる技術開発をテーマに，県北部地域の立地特性や気象に対応した水稲や野菜，地域特産作物の安定生産技術や省力化技術の開発，新品種育成に向けた試験研究を実施しています。

所内の組織体制は，総務課，園芸研究室，作物研究室の1課，2室で構成し，うち園芸研究室は，室長，研究員3名の計4名が在籍しています。病害虫防除技術開発に関する業務は，主に1名が担当し，北上市にある岩手県農業研究センター生産環境研究部病理昆虫研究室（以下，「北上本部」）と連携しながら，以下の野菜などで技術開発に取り組んでいます。

研究所の庁舎と試験圃場

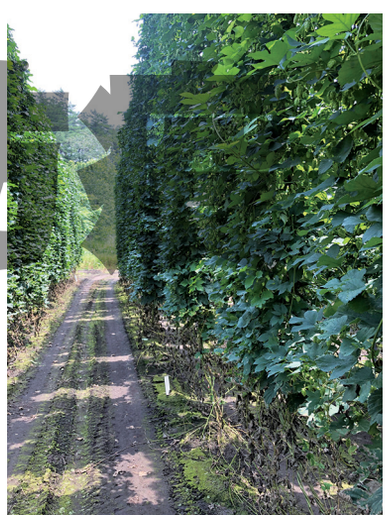
1　抵抗性品種によるキャベツ根こぶ病対策の確立

本県は県北地域を中心に，7～10月を出荷時期とするキャベツの夏秋産地ですが，夏季を中心に根こぶ病が発生し，減収の要因となっています。本病の対策として薬剤の土壌処理やセルトレイ灌注処理，転炉スラグによるpH改良の効果が指導されていますが，より簡易で低コストな対策として抵抗性品種の利用が考えられます。産地で広く栽培されている春系品種では，根こぶ病抵抗性を持つ品種が非常に少なく，現地での栽培事例もほとんどありません。また，寒玉系品種には，強度の抵抗性を有する‘YCRふゆいろ’などの新品種が近年開発されていますが，産地ではほとんど普及していません。

そこで当研究室では，抵抗性品種を用いた根こぶ病対策の確立を目的として，既存の抵抗性品種の栽培特性を把握するとともに，産地で発生している根こぶ病の病原型を明らかにする取組を実施しています。

2　ホップ生産における病害虫防除に関する試験

ホップ栽培において，ハダニ類の被害が特に問題となります。近年，ハダニ類において登録を有する薬剤への抵抗性発現が確認され，防除効果が低下しています。この抵抗性発現への対応としては，作用機構の異なる複数薬剤をローテーションで散布することが重要ですが，登録薬剤が少ないことから最適な防除体系の組立てが困難な状況にあります。



ホップの試験圃場（現地）

このため，北上本部と連携しながら，国内で既登録の殺ダニ剤とは異なる作用機構を示す薬剤について，農薬登録に必要な薬効・薬害試験，作物残留試験を実施しています。

3　その他

野菜や地域特産作物の新農薬実用化試験として，農薬登録や適用拡大に必要な薬効・薬害試験を実施しているほか，病害虫防除所が発信する防除情報の資とするため，野菜主要害虫数種の発生予察を行っています。

（室長　川戸善徳）

〒028-6222　岩手県九戸郡軽米町山内23-9-1
TEL　0195-47-1074